

揖斐農林事務所の普及活動状況 令和4年2月24日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■関係機関との連携 「令和4年度普及指導計画（案）」を検討

2月7日に3町、JAいび川、農業共済と営農連絡会議を実施し、令和4年度普及指導計画（案）について説明及び検討を行った。令和3年度に引き続き、令和4年度は、2つの重点課題と5つの専門課題で普及指導活動を行う。より効果的な活動に結びつけるため、関係機関の意見や要望を踏まえて内容を修正し、4月の営農連絡会議で計画書を配布する。町およびJAの振興計画と併せ、連携機関が目標を共有して現地の課題解決に取り組み、揖斐地域の農業振興に繋げていく。

■担い手リーダー 美濃揖斐地域指導農業士会 役員会

2月14日に令和3年度第3回揖斐地域指導農業士会役員会が開催された。コロナ禍により、活動が思うようにできず、紙面やオンラインで会議等へ参加し、コロナ禍の合間を見て、新たな会員の認定式や県等行政機関への提言や要望活動に取り組んできた。

今回の役員会では、令和4年度にはコロナ禍が収まることを見込み、新たな役員体制や次年度活動の素案を検討した。また、新たな会員が2名加わることとなった。農業普及課では、担い手リーダーの活動を支援し、農業経営の持続的発展、地域農業の活性化に寄与していく。

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■GAP 美濃西部製茶組合 ぎふ清流GAP組織・施設評価

2月8日に美濃西部製茶組合において、ぎふ清流GAP推進センターによる組織評価・施設評価が実施された。

2月9日・10日には農場2戸において、組合による評価が実施された。

GAPの取り組みについて聞き取りを行い、書類や燃料等の管理状況などの評価が行われた。

今後も農業普及課では、国際GAPへの取り組み支援を継続していく。



【GAP 評価の様子】

■柿 炭疽病発生状況調査

2月24日に農業普及課と病虫害防除所および大野町かき振興会技術部で、大野町内4カ所で柿の炭疽病の発生状況について調査を実施した。

昨年大野町内において6月上旬頃から新梢への感染が始まり、その後果実で発病し被害につながった経緯がある。今作に向けて振興会では冬枝に発生した越冬病斑の除去等、圃場内の菌密度を少なくする対策について呼びかけているところ。

今回は、昨年炭疽病の多発生圃場を対象に枝の病斑発生数を調査した。多発生圃場では発病枝が確認でき、今作への影響も懸念される。春からの防除対策について継続支援を実施する。



【炭疽病調査の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■いちご 岐阜県いちご共進会実物審査

2月11日に岐阜市のショッピングセンターにて、岐阜県いちご共進会の実物審査の結果が発表された。岐阜県いちご共進会は、優良生産者の表彰により県内生産者の栽培技術改善、品質向上、経営の合理化を図ることを目的として、毎年開催されている。実物審査では、玉揃い、色つや、詰め方、選別、糖度の5項目が審査された。第1位には、揖斐管内の生産者が選出され、日頃の細やかな栽培管理や丁寧な出荷技術などが評価された。

今後、県審査、出荷・販売審査を経て、6月頃に最終的な審査結果が発表される。農業普及課では、関係機関と連携しながら、優良生産者の技術を地域に波及し、産地振興につなげていけるよう支援を行っていく。



【実物審査結果】

■茶 美濃いび茶振興会幹事会開催

2月18日に、池田町役場にて美濃いび茶振興会幹事会が開催された。第47回の美濃いび茶振興会 通常総会について検討され、コロナ禍の状況を鑑みて、書面開催とすることが検討された。

また、長引くコロナ禍にあって茶の消費も厳しい状況が続いているが、産地をバックアップする事業を進めることで同意を得られた。

農業普及課では、茶の消費拡大に繋がるPRなども視野にいたした支援を行っていく。



【幹事会の様子】

中山間地域を守り育てる対策

■揖斐地域特産農産物 第3回振興チーム会議の実施

2月22日に揖斐川町、JAいび川、揖斐農林事務所で本年度の地域特産農産物の振興実績と令和4年度の活動について情報共有を実施した。とうがらし、金ゴマ、沢アザミおよび在来農産物、ワサビの実績を検討し、次年度の目標と関係機関の役割分担を行った。

令和3年度は、3回のチーム会議を実施し、品目毎に計画の進捗状況を確認しながら検討結果を現地に繋げたことで、それぞれの当初目標をほぼ達成することができた。令和元年より取組を始めたとうがらしにおいては、近日揖斐川町の新たな特産品として決定した名称と加工品を揖斐川町が記者発表を実施する予定である。



【チーム会議の様子】